

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 旭岡中 学校 学級数 6

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標
礼儀正しく、高め合い、進んで意欲的に学ぶ生徒の育成

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

- 1 取組のきっかけ
昨年度の生徒、保護者、学校それぞれの学校評価から考察すると、本校の共通する課題は、「①基礎的・基本的な学習内容の定着」「②家庭学習の習慣化」「③進んで意欲的に取り組み表現する力」があげられた。
特に、重点教育目標にも掲げられている「進んで意欲的に」の部分に達成が不十分であることから、校内研究の新たな2か年計画の1年次として「表現力を高め意欲的に学習する生徒の育成 ～言語活動の充実と基礎基本の定着を目指して～」という研究主題を設定し校内研究を進めることとした。
- 2 取組の位置付け
教務及び研究推進委員が中心となり、校内研究の改善と充実を図っている。
- 3 取組の方法
昨年度までに作成した教科の年間指導計画には評価規準と合わせて言語活動が位置付けられており、一覧性が高く、これを基に日常の実践がなされている。また、校内の授業交流においては、観察の視点が一致するように学習指導案の中で「評価規準と評価方法の明記」「言語活動の位置付け」「努力を要すると判断される生徒への手立て」「学習のポイントや活動の核となるところの明確化」「学習の振り返り」などを記載するように統一しており、1教科1教師の状態であっても授業交流が活性化されるような工夫がなされている。
さらに、年度当初に校内研究の年間計画に全員の授業交流と全体公開研修会の日程を明記し、年間を通して全員で授業交流をしていく機運を高めている。
授業交流では、参観者が参観票に項目別（言語活動・学習の振り返り）に気付いた点を記入し、交流内容が授業者の指導の手立てに生かせるよう工夫をしている。

取組の成果と課題等

- 取組の成果
 - ・ 交流授業において、観察の視点が一致するように学習指導案に記載する内容を統一した。
(成果) → 学習指導案の形式が整理されたことで授業観察の視点がわかりやすくなり、授業改善のための交流が活性化された。
 - ・ 校内研究の年間計画に全員の授業交流日と全体研修会の日程を明記し、年間を通して計画的に授業研究を行った。
(成果) → 全体研修会までの期間で全員の授業を公開することができ、有意義な授業研究を行うことができた。
 - ・ 授業交流の視点として、学習指導案に記載されている「言語活動」「学習の振り返り」を中心に絞り込み、参観票に記入しながら授業交流を行った。
(成果) → 「言語活動」「学習の振り返り」を中心に位置付けることにより、生徒へのアプローチを熟考することで、指導の手立ての改善に努めることができた。また、他教科の授業参観であっても一致した視点で観察することができ、授業の改善に役立てることができた。
- 教育課程検証の方法
 - ・ 昨年度に引き続き、生徒、保護者、教職員それぞれの学校評価を行い、昨年度と比較しながら考察しているところである。
 - ・ 生徒からの授業アンケート（授業評価）の内容を発展的に精査し、改善することにより、さらなる授業改善の一助としている。

